

広報

おばま 4

2017

《表紙》

そらのとり保育園（和久里）にソーラー時計を使用した時計塔型モニュメントが設置され、卒園記念として園児が木材防護剤を塗りました。

※時計塔は、県のキッズデザイン「こどものまち」づくり事業で設置されました

（3月14日）

【特集】平成23年度 当初予算

『「夢、無限大」感動おばま』の実現に向けて 平成 23 年度 当初予算

平成 23 年度 会計別当初予算

	平成 23 年度	平成 22 年度	増減率	
一般会計	138 億 600 万円	137 億 5,300 万円	0.4%	
特別会計	88 億 330 万円	87 億 5,389 万円	0.6%	
内 訳	国民健康保険	31 億 1,863 万円	29 億 9,412 万円	4.2%
	老人医療	0 円	248 万円	皆減
	後期高齢者医療	3 億 5,359 万円	3 億 6,532 万円	▲3.2%
	介護保険	28 億 1,252 万円	28 億 3,868 万円	▲0.9%
	簡易水道	1 億 739 万円	8,331 万円	28.9%
	下水道	18 億 8,331 万円	19 億 3,648 万円	▲2.7%
	農業集落排水	4 億 5,654 万円	4 億 5,914 万円	▲0.6%
	漁業集落環境整備	5,026 万円	5,238 万円	▲4.1%
	駐車場	2,103 万円	2,196 万円	▲4.2%
	加斗財産区	3 万円	3 万円	0%
企業会計 (水道)	7 億 4,245 万円	8 億 5,487 万円	▲13.1%	
合計	233 億 5,176 万円	233 億 6,176 万円	0.0%	

歳入は、景気低迷による市税の減少が見込まれます。歳出では、少子高齢化を背景とした制度拡充で社会保障関係経費や杉田玄白記念公立小浜病院組合、若狭消防組合への負担金が増加しています。また、過去の大型事業に伴った借金の返済もピークを迎えます。今後も厳しい財政状況が

継続と予測されることから、第五次行財政改革大綱や中期財政計画により、人件費や新たな借金の抑制を着実に実行するとともに、事業評価に基づき五十七事業の整理統合を進めました。また、第五次総合計画を着実に推進するため、市民協働を念頭においた「予算

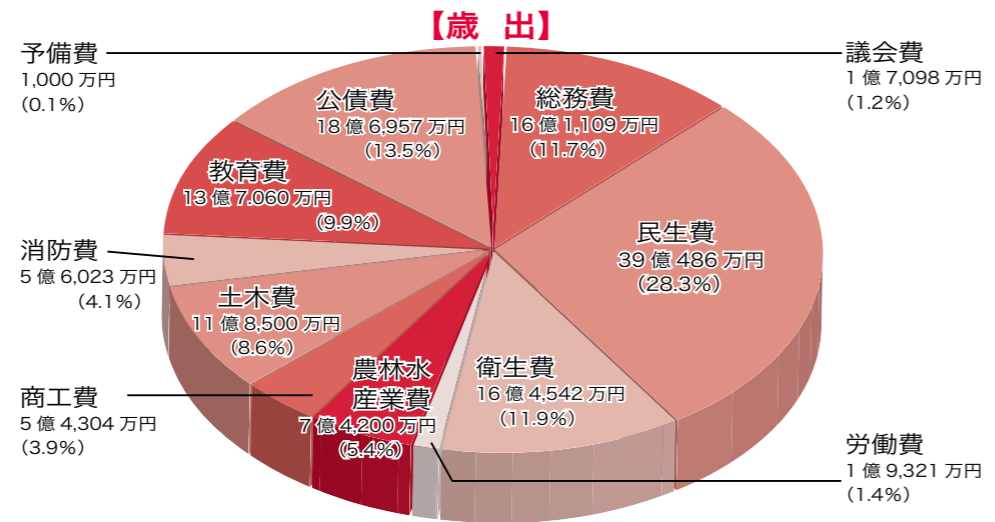
第 5 次総合計画のスタートとなる平成 23 年度の当初予算が決まりました。総合計画の目指す将来像である『「夢、無限大」感動おばま』の実現に向けたさまざまな事業や、市制施行 60 周年記念事業や市民協働による地域力を推進する事業に取り組みます。持続可能な健全財政の確立のため、人件費や新たな借金を抑制しながら、将来に向けたまちづくりに備えてソフト事業を中心にきめ細かく予算付けしました。限られた財源を効果的、重点的に配分したメリハリのある予算とし、同 22 年度に引き続き、財政調整基金 (貯金) を取り崩すことなく予算編成しました。

一般会計は 138 億 600 万円、前年度比 0.4% の増と前年度とほぼ同規模、特別会計は 88 億 330 万円、前年度比 0.6% の増、企業会計 (水道会計) は 7 億 4,245 万円、前年度比 13.1% の減となりました。

■問い合わせ 財政課 ☎内線 333

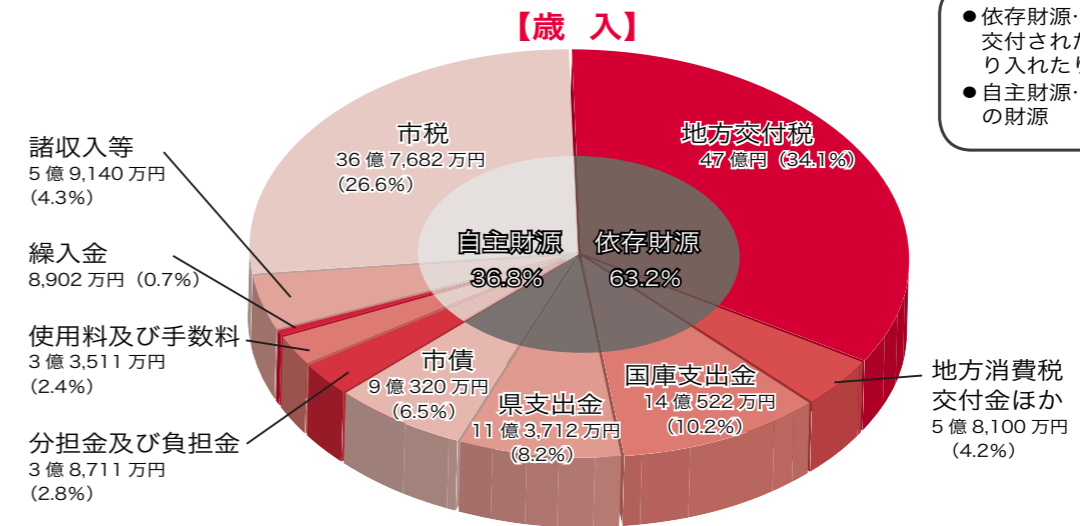
特別枠」を設けて、観光、産業、福祉、人づくり関連のソフト事業を中心とした予算を盛り込むなど、併せて四十一事業を新規事業として立ち上げました。市民生活の安心の確保に向けた取り組みとして、防災行政無線の整備、小浜中学校北館や児童デイサービスセンターの改修、猛暑対策として中学校にエアコンを導入する事業などを行います。また、小中学校遠距離通学者やスクールバス通学者に対する負担軽減を盛り込みました。現在の厳しい経済状況を踏まえ、前年度に引き続き、国の基本事業を活用した地元雇用対策も行います。

特別枠」を設けて、観光、産業、福祉、人づくり関連のソフト事業を中心とした予算を盛り込むなど、併せて四十一事業を新規事業として立ち上げました。市民生活の安心の確保に向けた取り組みとして、防災行政無線の整備、小浜中学校北館や児童デイサービスセンターの改修、猛暑対策として中学校にエアコンを導入する事業などを行います。また、小中学校遠距離通学者やスクールバス通学者に対する負担軽減を盛り込みました。現在の厳しい経済状況を踏まえ、前年度に引き続き、国の基本事業を活用した地元雇用対策も行います。



今後も、市民の皆さんに市の財政状況をお伝えしながら、次世代に向けたまちづくりに必要な施策を推進していきます。

一般会計 138 億 600 万円



- 依存財源…国や県から交付されたり、市が借り入れたりする財源
- 自主財源…小浜市独自の財源

一般会計予算を市民 1 人当たりによると **433,933 円** で、目的別内訳の主なものは次のとおりです (人口 31,816 人 3 月 1 日現在)

商工費 (商工業の振興、観光事業など) 17,068 円	土木費 (道路、河川、公園の整備や維持管理など) 37,246 円	教育費 (学校教育、社会教育、体育施設の維持管理など) 43,079 円	公債費 (借金の返済) 58,762 円	総務費 (課税徴収、防災、戸籍事務など) 50,638 円	民生費 (障害者、高齢者、児童の福祉など) 122,733 円	衛生費 (環境保全、ごみ処理など) 51,717 円	農林水産業費 (農業、林業、水産業の振興など) 23,322 円
--	--	---	---------------------------------------	--	--	---	---

夢を実現できる住み心地のよいまちを目指して

道の駅管理事業……………1,132 万円



3 月 12 日にオープンした道の駅「若狭おばま」の維持管理費

道路、橋りょうの整備……………2 億 2,720 万円

市民の生活基盤安定のため、地元要望のある道路や橋りょうを整備します

地上デジタル放送移行推進事業……………588 万円

7 月の地上デジタル放送完全移行に伴い、普及啓発や相談業務を行います

夢と生きがいに満ちた健康で安心した暮らせる長寿のまちを目指して

地域ふれあいサロン自立支援事業……………30 万円



地域ふれあいサロンの自立運営を促進するとともに、未設置地域の解消や開催回数増加を目指します

OBAMA で愛（出会い）応援事業……………60 万円

結婚を望む独身男女が出会うためのイベントを開催します

児童デイサービスセンター改修事業……………1,300 万円

母と子の家を改修し、集団療育の機能拠点を充実させます

地域子育て支援事業……………1,535 万円

子育て親子の集う場や相談に応じる場を設け、子育て支援事業を充実させます

防災行政無線整備事業……………500 万円

避難勧告などの防災情報を迅速かつ確実に伝えるため、同報系防災行政無線を整備します（平成 23～25 年度実施）

子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進事業……………2,491 万円

子宮頸がん予防ワクチンなど、3 つのワクチン接種について、全額公費助成します

みんなで健康づくり支援事業……………42 万円

健康の保持・増進のため、地域に密着した健康づくり活動を推進します

地域力を集結した協働のまちづくりを進めるために

いいとこ小浜づくり活動支援事業……………200 万円



まちづくり活動団体に助成金を支給します

小浜子どもわくわく塾（平成 22 年度実施の同事業）

夢づくり市民活動支援事業……………50 万円

市民、団体と協働した人づくり、まちづくりに取り組むため、ボランティアや市民の団体の活動を支援します

夢づくりコミュニティ支援事業……………500 万円

各地区の「いきいきまちづくり委員会」の活動費を補助します

みんなで協働ガイドライン作成事業……………67 万円

市民、団体などがまちづくりに参加するためのガイドラインを作成します

市民協働地域環境づくり……………700 万円

ボランティアや市民団体の活動に対し、原材料などを現物支給します（保育園、小学校、農地、林道、土木）

平成 23 年度 主な予算の使い道（事業）を紹介します

赤字 … 新規事業

夢を生みだす魅力ある産業・観光のまちをめざして

NHK 大河ドラマ「江」活用観光推進事業……………154 万円



大河ドラマ「江」の放映にあわせ、「お初」を活用して知名度の向上や誘客を促進します

「みんなで減らそう鳥獣害」モデル事業……………73 万円

被害の現状を把握して、専門家と集落が連携して鳥獣害対策に取り組みます

生き物共生農業推進事業……………100 万円

生き物との共生を目指し、環境保全型農業の推進を支援します

小浜西組周辺観光施設環境整備事業……………750 万円

観光客の利便向上のため、小浜公園周辺にあずまやを整備します

ものづくり就職奨励金……………192 万円

市内の製造業の事業所に就職した人に奨励金を交付します

特色ある地域農業推進事業……………115 万円

地域農産物の PR やブランド化する活動、GAP（農業生産管理）認証制度取得に係る費用を助成します

夢と誇りあふれる人を育むまちをめざして

小中学校通学費助成事業……………762 万円

小中学校スクールバス運行事業……………543 万円



あいあいバスやスクールバス、JR を利用している児童、生徒に対する公費助成を拡充します

小浜中学校北館改築事業……………3 億 8,117 万円



小中学校施設耐震化推進計画に基づき、小浜中学校の北館を改築します

中学校エアコン導入事業……………640 万円

猛暑対策として、夏季休業中に補修などで施設を利用する中学校にエアコンを導入します

生涯食育推進事業……………183 万円

キッズ・キッチンや食育啓発事業で「生涯食育」を通じた人づくりまちづくりを進めます

まちなか・むらなかフェスティバル事業……………70 万円

市内各所（寺院など）で落語会や音楽祭を開催します

特色あるふるさと学習推進事業……………175 万円

総合的な学習を中心に全教育課程で、ふるさと体験学習を進めます

がんばる地域応援事業……………150 万円

公民館と地域住民との協働で地域資源を生かしたイベントを開催します

みんなでつなごう文化財にぎわい創出事業……………70 万円

歴史的建造物（旭座、八幡神社能舞台、小浜聖ルカ教会など）の公開や公開を目的とした調査を実施します

「夢、無限大 感動おばま」を目指して

三月定例市議会での松崎市長の所信表明を要約して掲載します

成二十三年度は、まち歩きの出発点となる小浜公園周辺に休憩施設として「あずま屋」を整備し、観光客の利便性向上を高めることで、観光地としての魅力向上に努めます。

また、「京極高次」と「初」のゆかりの地である常高寺やお初の墓所等を観光資源として情報発信し、大河ドラマを契機とした観光地の魅力向上に努めていきます。

*

中心市街地や市内観光へいざなう情報施設と小浜の特産品等を販売する物販施設で構成され、観光局が運営する道の駅「若狭おばま」が三月十二日にオープンします。高速道路の無料化実験が本年夏に開通する小浜インターチェンジまで延伸されることと合わせ、市内への回遊性を高める拠点として、地域経済および産業の活性化につなげていきます。なお、観光局については、設立二年目を迎え、地域資源を生かした着地型観光の推進に努めるとともに、本格的な収益事業である「道の駅の物販施設」の運営を通じ、会社の基盤を確立してまいります。

*

企業誘致の取り組みは、昨年十一月に、日本ユニシス株式会社小浜データセンターの立地が正式決定し

計画を着実に推進してまいります。

若狭広域連携による地域経済の活性化

琵琶湖若狭湾快速鉄道の実現に向けた取り組みとして、平成九年度から嶺南市町で積み立てています嶺南地域鉄道整備促進基金を、同二十三年度も継続していきます。また、この鉄道計画が抱える多くの課題を解決するためには、県の主体的かつ積極的な取り組みが欠かせないところであり、嶺南他市町と共に、引き続き県へ要請していきたくと考えています。

あいあいバスの路線については、小浜縦貫線を毎日走る路線を新設し、また、商業施設付近にバス停を設置して、利便性を向上したいと考えています。

*

NHK大河ドラマ「江」ゆかりの地として常高寺が注目されるとともに、小浜西組周辺観光施設の環境整備を計画的に推進していきます。平

クト」に繋がる「市民・団体・事業者・行政による協働」をキーワードに、めざす将来像『「夢、無限大」感動おばま』のまちづくりを目指してまいります。

「行財政改革の断行」による持続可能な行財政基盤の確立について

十六ページに「行政／財政改革に取り組みます」を掲載しましたのでご覧ください。

「市民の参加協働型市政」の推進（第五次小浜市総合計画がスタート）

市民ひとりひとりが、自然、歴史、文化などの地域資源を発見・認識することで深く心を動かされ、自ら感じ、施策を推進していく。そして、市民・団体・事業者・行政それぞれが持つ「地域の問題を解決し、価値を創造し、高めていく力」を結集し、それぞれが夢を描き、若々しく希望に満ちた躍動感あふれるまちを目指します。今後は、市民・団体・事業者・行政の協働により、第五次総合

計画を着実に推進してまいります。

計画を着実に推進してまいります。

「行財政改革の断行」による持続可能な行財政基盤の確立について

十六ページに「行政／財政改革に取り組みます」を掲載しましたのでご覧ください。

「市民の参加協働型市政」の推進（第五次小浜市総合計画がスタート）

市民ひとりひとりが、自然、歴史、文化などの地域資源を発見・認識することで深く心を動かされ、自ら感じ、施策を推進していく。そして、市民・団体・事業者・行政それぞれが持つ「地域の問題を解決し、価値を創造し、高めていく力」を結集し、それぞれが夢を描き、若々しく希望に満ちた躍動感あふれるまちを目指します。今後は、市民・団体・事業者・行政の協働により、第五次総合

計画を着実に推進してまいります。

計画を着実に推進してまいります。

「行財政改革の断行」による持続可能な行財政基盤の確立について

十六ページに「行政／財政改革に取り組みます」を掲載しましたのでご覧ください。

「市民の参加協働型市政」の推進（第五次小浜市総合計画がスタート）

市民ひとりひとりが、自然、歴史、文化などの地域資源を発見・認識することで深く心を動かされ、自ら感じ、施策を推進していく。そして、市民・団体・事業者・行政それぞれが持つ「地域の問題を解決し、価値を創造し、高めていく力」を結集し、それぞれが夢を描き、若々しく希望に満ちた躍動感あふれるまちを目指します。今後は、市民・団体・事業者・行政の協働により、第五次総合

意見を聞きながら具体的方針を取りまとめたいと考えています。

*

舞鶴若狭自動車道の整備進捗状況については、小浜西インターチェンジから小浜インターチェンジ間については、最後の仕上げとなる舗装工事が進められ、本年夏の供用開始に向けて着々と進んでいます。

また、小浜インターチェンジから敦賀ジャンクション間についても、平成二十六年年度的全線開通を目指して、鋭意工事が進められています。

*

このたび国において、「食の未来ビジョン」が策定されました。このビジョンには、本市のこれまでの食育活動が大きく評価され、本市で誕生した「生涯食育」というキーワードとともに、その思想が盛り込まれました。こうした中、本市では、これまで食のまちづくりの成果をふまえ、市民の食生活の向上による健康寿命の延伸など、次へのステップをめざした新しい食育推進計画を市民のみならず協働して策定していきたいと考えています。

また、キッズ・キッチンをはじめとした生涯食育の考え方、運営のノウハウは、本市が誇る特色ある食育事業として大切な財産であり、今後

これらを活用し、訪れる観光客に本市の魅力と感動を味わっていただく「食育ツーリズム」を展開したいと考えています。

*

鳥獣被害の対策については、恒久金網柵、電気柵、緩衝帯などの設置による、シカ、イノシシなどの集落、農地への侵入を防ぐとともに、個体数削減のため、猟友会と連携した捕獲・駆除を、引き続き強力に推進していきます。特に捕獲・駆除については、夜間少人数で大量のシカを捕獲できる画期的な方法として本市の猟友会が考案された、ドロップネット方式の大型捕獲装置の普及を、県や近隣市町とも連携しながら推進していきます。

また、平成二十三年度からは、これまで進めてきた、集落が自ら取り組む鳥獣害対策の向上を図るため、より具体的な対策を住民に指導できる専門家を集落に派遣することで、集落自らが専門家や行政と協働して、一層効果的な鳥獣害対策に取り組めるよう支援してまいります。

*

農業振興については、食のまちとして、環境や安全・安心に配慮した特色ある農業を目指し、本年度から地域住民と連携した環境保全型農業

や、J-GAPと呼ばれる安全・安心な農産物の認証取得にも支援を開始します。また、体験観光と結び付いた市民農園や体験農園についても、昨年度に引き続き積極的に推進していくほか、梅のオーナー制度といった消費者と農業を近づける新たな取り組みにも支援してまいります。さらに、地域農産物の出向宣伝などへの支援やブランド化を推進するほか、昨年より取り組みを始めた小浜産米粉の普及推進については、消費者への利用を進めるだけでなく、米粉製品を推奨していくなど、米粉の生産と消費のさらなる拡大を進めていきます。

*

林業振興については、本年小浜市で開催する「嶺南地区緑化大会」などで、森林が有する水源涵養や環境保全、保健休養などの多面的機能、さらに森や緑の大切さを意識啓発していくとともに、「利用間伐」を中心に林業を推進し、その生産性の向上のため、林道・作業道等の整備を実施・支援してまいります。

*

水産業振興については、地域の水産業を活性化していくため、海底耕運などの漁場整備による資源保護を推進するとともに、関係団体による

本年は昭和二十六年三月三十日に一町七村が合併し、小浜市が誕生して六十年となる記念すべき年で、大きな節目の年です。この記念すべき年にあたり、市民の皆様と一緒に市制施行六十周年記念事業を展開してまいります。

六十周年記念事業については、テーマを「結」とし、市民の皆様が助け合い、協力し合うということをコンセプトに実施したいと考えています。具体的には、本年夏の舞鶴若狭自動車道小浜インターチェンジまでの開通記念事業を皮切りに、主要事業として「心を結ぶ未来へのつどい」と題し、OBAMA食のまつりの拡大版など、多彩な事業を実施する予定です。事業内容については、今後、広報おばまや市公式ホームページなどで随時お知らせし、市民の皆様と共に市制施行六十周年を祝いたいと考えています。

また、この記念すべき年をスタートとする、「第五次小浜市総合計画」については、「地域力集結プロジェクト」は、旧ポリテクセンター小浜分所跡地に建設され、来年一月の操業開始を目指しています。同社は、我が国の情報通信産業を支え続けてこられたIT企業であり、クラウドコンピューティングの時代を迎え、将来的には、更なる事業拡大により、本市が同社の国内最大級のデータセンターとなる予定です。今後も企業誘致を積極的に進めるとともに、工場拡張などに取り組み地元製造企業に対しても支援してまいります。

*

つばき回廊業務棟の一、二階の売却については、一月十九日に小浜信用金庫と契約を締結し、二十四日に引き渡ししました。信用金庫はこれを企業内保育園等として活用され、次世代育成支援対策推進法に基づく認定事業主として、仕事と子育ての両立支援に向けた取り組みを進められる予定です。一方、商業跡地は、中心市街地の核として重要な地点であり、中心市街地活性化基本計画でも、市の活性化、にぎわい創出のために、三駅構想の一拠点である「まちの駅」として整備することが望ましいとの方針が示されています。今後、市議会の跡地対策特別委員会をはじめ、関係団体、民間企業等の

小浜産水産物の学校給食への普及事業を積極的に支援し、消費の拡大などを行っていきます。

さらに、林業と水産業が連携した施策として、昨年より本市を含め、れいなん森林組合、小浜市漁協、福井県立大学などが連携して取り組んでいる、間伐材を活用した魚礁設置の実証事業についても引き続き進めていきます。

小浜西組重要伝統的建造物群保存地区の整備について、平成二十三年度は、六棟の修理を行うとともに、市単独の補助事業も従来どおり継続し、地域全体の修景整備に努めていきます。また、本市には小浜西組以外にも、旧旭座や聖ルカ教会などの近代化遺産と称される歴史的建造物が多数現存しています。この貴重な歴史的建造物を守り、後世に伝えていくため、市民の皆様との協働により公開や活用をしていきたいと考えています。

悠々いきいきシティ小浜

男女共同参画については、このほど策定した「第二次おばま男女共同参画プラン」の施策を推進していきま

た、田鳥小学校と内外海小学校の統合については、同二十二年九月に、正式に統合の意志を確認したところ。同二十四年四月の統合に向け、同二十三年度は、両校の統合がスムーズに進められるよう、学校間の交流事業を計画しています。

また、現在、高校の授業料無償化や子ども手当の支給などのほか、小中学校の通学費についても無償化すべきとのご意見を受け、検討委員会を設けて協議いただいたところです。市としては、検討委員会からいただいた提言に基づき、同二十三年度より、小学校では、将来の学校統合を視野に入れる中で、通学距離が四キロ以上については無償とし、四キロ未満については、保護者負担の上限を月額千円にしたいと考えています。また、中学校については、通学距離に関わらず、保護者負担の上限を月額千円にしたいと考えています。なお、JR列車の利用負担については、六カ月定期代の二十％を保護者負担とすることで、負担の軽減と不均衡を是正しました。

小浜中学校北館の改築については、今議会で建設費を計上し、完成は同二十四年の夏を目処として、夏休み中に備品などの移転と旧北館の解体に取りかかります。同二十四年

防災対策については、防災情報を迅速かつ確実に市民に伝え、災害による被害を最小限に抑止するため、同報系デジタル防災行政無線整備の準備を進めています。平成二十三年度は基本計画を策定し、三年間で整備したいと考えています。

市民対話の推進と情報の共有については、新しく、インターネットを利用した地域情報共有サイトを構築し、市民・団体・行政それぞれが持つまちづくりに関する情報を活用し合うことのできる場を整備していきたいと考えています。

健康づくりの施策については、生活習慣病を予防するため、特定健康診査の受診率の向上に向けた取り組みを強化し、新たに、医療機関から通院中の特定健診未受診者の診療データの提供を受ける特定健診受診体制向上事業を実施します。また、がん対策として、個別がん検診用の受診券を対象者に送付し、受診を勧奨するとともに、子宮頸がん・乳がん受診の無料クーポン券制度も継続して実施します。さらに、平成二十三年度も引き続き、子宮頸がん予防ワクチンやヒブ・小児用肺炎球菌ワクチンの予防接種事業の無料化

度中には周辺整備を含め、すべての整備を完了する予定です。また、児童生徒の健康管理面から、エアコンの設置が必要と考え、小浜中学校の北館は、この度の改築で、一方、小浜第二中学校は来年度に設置を予定しています。さらに、小学校でも、中学校が完了後、順次、設置に取り掛かりたいと考えています。なお、良好な教育環境整備のため、本年度に続き、来年度以降も、小中学校の図書の実実に努めます。

体育施設の整備について、小浜市弓道場は、昭和五十六年三月に建設以来、三十年を経過し、老朽化しています。平成二十三年度で、小浜市総合運動場内に新築することになりました。

環境への取り組みですが、平成十六年度に策定しました環境基本計画に基づき、生活環境の保全や循環型社会の構築を目指し、様々な施策を実施してきましたが、同二十三年度がこの計画の最終年度となるため、これまでの成果を検証し、新たな計画を策定していきます。

同二十年度には、リサイクルプラザを開設し、また、燃やすごみの指定袋を導入した結果、取り組み前と

に取り組みます。

高齢者福祉については、本市の高齢化率は二十七％を超え、年々高齢化が進む中、住み慣れた地域で安心して暮らせる長寿のまちを目指し、地域ふれあいサロンの未設置地区の解消やサロンリーダーを育成するなど、高齢者が社会活動に積極的に参加できる仕組みづくりや共に支え合う地域づくりを、市民と協働で推進していきます。

一方、少子化が進み本市の人口が減少しつつある昨今、少子化対策、結婚対策として「OBAMAで愛応援事業」を実施し、イベントを通じて新しい出会いの場を提供します。

小浜市地域福祉計画については、第五次総合計画の策定に合わせて、見直しを予定しています。また、発達障がい者への支援対策については、これまで実施した基礎調査やアンケートの調査結果を基に、本年度中に「総合的な発達障がい者支援計画」を策定します。この計画では、発達障がい者が、地域の一員として充実した日常生活を送れるよう、地域全体で推進していきたいと考えています。

比べ同二十一年度は、燃やすごみの収集量は約千七百ト減少し、リサイクル率は十六・七％から二十・六％へ向上いたしました。更なるごみの減量化やリサイクル率の向上を目指し、市民と協働して循環型社会の構築に向け取り組んでいきます。

上水道の事業は、普及拡大と安定供給に努めてきましたが、近年の気候変動による水資源の減少や水質の悪化が懸念されています。また、簡易水道の中には、水源が不安定なものが多くあり、上水道事業への統合が望まれていることから水源を多様化するために河内川ダム事業に参画しています。今後の対応方針の決定までには、まだ相当の時間を要するものと考えられます。本市では検証・検討会議の中でダムの必要性を明らかにし、事業の促進と、平成二十二年三月に策定した小浜市水道ビジョンに掲げる「安心・安定・持続を約束するおばまの水道」を実現するための事業に取り組んでいきたいと考えています。

公共下水道事業については、現在全整備計画の最終段階を迎え、汚水管の整備工事は、遠敷地区と今富地区の一部を残すだけとなっております。

保育園の統合については、まず、内外海児童センターと田鳥保育園を本年四月に統合し、田鳥から六人の園児が内外海児童センターへ通園することとなります。統合ができるのも保護者のご理解と地域の皆様のご協力の賜物と感謝しております。続いて、小浜第一・第二保育園の統合については、小浜幼稚園と連携し、より充実した幼児教育と子育て支援機能を生かした認定こども園とする計画を進めています。具体的には、平成二十五年春の開設に向けて、カリキュラムの策定や各方面への調整を行っていきます。

一方、小学校の統合については、平成二十一年十二月から、各地区の代表者の方々や住民の皆様と統合に対する市の基本的な考え方を説明させていただきました。この度、遠敷・松永・国富・宮川地区から、統合に向けて具体的な協議に入るとの回答をいただき、地区内の様々なご意見を取りまとめいただいた役員の方々に、心より感謝申し上げます。今後は、具体的な内容について、協議していただき、一日も早く新たな学校が開校できるよう、精一杯努力していききたいと考えています。ま

平成二十四年度には舗装復旧工事も含めてすべて終了する予定です。今後は、事業の中心が「建設」から「維持管理」へと移行していくことから、水洗化率の向上や下水道使用料の取納率を向上させ、より一層の経営健全化に努め、持続可能な事業として取り組んでいきます。こうした中、昨年六月から「下水道使用料制度審議会」を継続的に開催し、適正な使用料について、審議賜り、昨年十二月に答申をいただきました。これを踏まえて今議会に十年ぶりとなる使用料の改正議案を上程しています。厳しい経済情勢が続く中、市民の皆様にご負担の増加をお願いすることは誠に心苦しい次第ですが、今後の下水道施設の安定的かつ適正な運転管理のため、ご理解とご協力をお願いいたします。

以上、申し述べてまいりましたが、市民の皆様と共に考え、共に汗をかきながら、本市の諸課題、諸施策に果敢に挑み、《ワクワクできるまち；小浜》のまちづくりを推進するとともに、『夢、無限大』感動おばま』を目指してまいります。議員の皆様をはじめ、市民の皆様の一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。所信といたします。